

# 耕作放棄地解消へ

## 高校会議所 活動を 拡充 マスマス元肥で再生

富士宮高校会議所は、SDGs実践「マスマス元肥(げんぴ)」を使って、耕作放棄地をよみがえらせよう!」プロジェクト第2弾として、本年度は耕地や交流などを拡充して取り組んでいる。

プロジェクトは、ニジマスの残渣(さんさ)と朝霧高原の牛ふんで作った堆肥「マスマス元肥」を使って農業をしたい人を募集し、栽培場所に耕作放棄地を紹介している。野菜や

果樹、草花などの栽培で新たな特産物の創出を図り、持続可能な社会を目指す。農業を含む各種事業者・団体の協力で実施している。

本年度はこれまでの粟倉に加え、新たに外神の耕作放棄地を活用し、地元の放課後児童クラブ「とがみえん・とがみえん北」の小学生とヒマワリを栽培する。迷路や景観を楽しむながら、収穫した種から油作りも目指す。カボチャ栽培と「ジャ

ンボカボチャコンテスト」も計画している。このほどメンバーと参加・協力が西町レトロ館に集まり、今後の取り組みを確認した。後日メンバーらは、外神の約1000平方メートルの耕作放棄地で、ヒマワ



リ畑の準備に励んだ。西原石材工業の協力で土を耕し、大きな石などを取り除き、種まきのラインを引いた。小学生とのコラボ活動を楽しみしながら汗を流した。粟倉、外神の耕作放

棄地で野菜や果樹などを栽培したい人を今月末まで募集している。

問い合わせは同会議所(☎090-5008-5439)。



外神の耕作放棄地で土を耕すメンバー(上)西町レトロに集まった関係者(下)提供写真